

白藍塾オリジナル

2018入試小論文分析&解答のヒント

2018年4月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部の志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・大原理志

●慶応・看護医療学部

今年度も、説明問題と小論文問題の2本立て。

課題文は「生態系の多様性」について説明した文章だが、日本の里山などを例に、自然の場の多様性がいかに時間をかけて形成され、豊かな潜在力を持つものかが示されている。逆に、多様性を奪われた自然（スギやヒノキの造成地など）や人工的に作られた「場の多様性」は、無意味で有害なものとして否定的に捉えられている。文章は読みやすく、難解なところはどこにもない。

問題1では「生態系」の説明が求められている。課題文の中には、「生態系」についての明示的な定義などは示されていないので、手持ちの知識や課題文中の記述などをもとに、自分なりにまとめる必要がある。A型を使って、最初に「生態系とは、多様な生物種が共生する安定的で相互連関的なシステムである」などとずばり示した上で、具体的な説明を加えるとよい。

問題2は、「場の多様性の恩恵を引き出すのに必要な人間の考え方」を説明することが求められている。「説明しなさい」とあるが、それに当たる内容が課題文中に明示的に示されているわけではないので、やはり小論文問題と考えるべきだろう。

とは言っても、課題文を踏まえて考えると、自ずと答えの方向性は決まってくる。「人間中心の価値観を改め、自然と対立するのではなく、自然との共存を心がけるべき」「生態系を無視した開発をやめ、持続可能な開発を行うべき」といった考えを、そうした考えが実践されている事例などを交えてくわしく説明すれば、それで十分だろう。環境問題について一定の知識や関心があれば、それほど難しくはない。

イエス・ノーの形では答えにくいので、最初にどんな考え方が必要かをずばり示した上で、第2部以降でそれを検討していく書き方にするとよい。

課題文のタイプ(自然科学系)はここ数年とは違っていたが、とくに難しい内容ではないので、きちんと読み取れさえすれば、答えるのにそれほど苦労はしないはずだ。また、今年度も、課題内容からして、医療や看護と無理に結びつける必要はない。

©執筆者の許可なく本紙の全部もしくは一部を無断転載、無断複写することを固く禁じます。

発行・白藍塾総合情報室 (03-3369-1179) <https://www.hakuranjuku.co.jp>